



令和5年度（2023年度）

第8回定例庁議

令和5年7月19日(水)午前8時30分～
第一応接室（担当：総合戦略室 内線1111）

1 報告事項

- (1) テレワークの推進について……………（総合戦略局・総務部）
- (2) 若者チャレンジ応援事業補助金の交付について……………（住民自治局）

庁議日程について

第9回定例庁議	8月 8日(火)	8時30分～
第10回定例庁議	8月28日(月)	8時30分～

庁 議 資 料
5 . 7 . 1 9
総合戦略局・総務部

(報告事項)

テレワークの推進について

1 趣旨

ワークライフバランスのとれた柔軟な働き方の推進、および、有事の際の業務継続性の担保を目的としたテレワークを推進するため、令和5年度夏季テレワーク・デイズを実施することについて報告するものです。

2 経過

- 2. 7～8 テレワーク（在宅勤務）実証実験
- 11～3 令和2年度松本市役所版テレワーク・デイズ開催
- 3. 3 テレワークガイドラインを作成
- 7～9 令和3年度松本市役所版夏季テレワーク・デイズ開催
- 4. 1～3 令和3年度松本市役所版冬季テレワーク・デイズ開催
- 10 令和4年度テレワーク・デイズ開催

3 令和5年度夏季テレワーク・デイズの概要

(1) 目的

- ア ワークライフバランスの向上と、休暇との組み合わせによる心身のリフレッシュ
機会の創出
- イ 現場業務と組み合わせた移動時間の短縮や市民と触れ合う時間の増加
- ウ 電話対応や窓口対応の業務分担を互いに助けあいチームワークを高める機会とと
らえた、全員が気持ちよくテレワークを行える職場風土づくり
- エ 集中した業務遂行による事務効率の向上
- オ 有事の際、庁舎閉鎖でも業務継続する訓練

(2) 実施期間

令和5年7月20日（木）から9月30日（土）まで（夏季休暇取得可能期間）

(3) 新規の取組み

ア テレワーク目標宣言

テレワーク期間中に何日程度テレワークを実施する予定なのかを職員一人一人が宣言します。期間終了後にどの程度達成できたのか、達成できなかった場合にどんな原因があったのかを調査しテレワーク環境の改善に努めます。

(ア) 対象者

全正規職員

(イ) 実施方法

ロゴフォームのアンケートにより、テレワーク・デイズ期間当初に実施予定日数を入力、期間終了後に実施実績の入力を各自で行います。

QRコード（インターネット）



QRコード（LGWAN）



イ テレワークの勤務場所等について

在宅勤務は「松本市職員在宅勤務実施要綱」、「松本市行政行動指針」および「テレワークガイドライン」に従って実施しています。勤務場所は職員の自宅又はその他自宅に準じる場所、勤務時間は午前8時30分から午後5時15分までとなっていますが、職員のワークライフバランス向上を目的にテレワーク・デイズ期間中、勤務場所および勤務時間を緩和します。

(ア) 対象者

正規職員

(イ) 勤務場所

- ・自宅
- ・帰省先等自宅と同等と考えられる家屋内
- ・その他職場と同等にセキュリティが担保されている場所

(ウ) 勤務時間

通常の勤務時間帯又は時差出勤と同じ時間帯

(エ) その他

- ・テレワークガイドラインに従い実施してください。
- ・勤務の開始及び終了について所属長に報告してください。
- ・時差出勤を行う際は、庶務事務システムの汎用申請から時差出勤の申請と在宅勤務申請の両方をお願いいたします。
- ・所定の休憩は必ず取ることとし、所属長は時間外勤務を命令しないでください。
- ・勤務場所および勤務時間を変更してテレワークで行う予定がある職員は、テレワーク目標宣言へ合わせて回答してください。実際の勤務時は所属長の許可のもと行ってください。
- ・夏季休暇や半日休暇と組み合わせ、心身のリフレッシュに利用してください。
- ・テレワーク・デイズ間終了後のアンケート等を分析し、経常化への検討を行います。

4 その他

テレワーク及び時差出勤の申請は庶務事務システムから行ってください。
アンケートへはテレワーク予定のない職員の方も回答をお願いします。

担当

DX推進本部	次長	赤澤 直徳	(内線 54201)
職員課	課長	中田 美弥	(内線 1150)



庁議資料
5. 7. 19
住民自治局

(報告事項)

若者チャレンジ応援事業補助金の交付について

1 趣旨

令和5年度新たに創設した松本市若者チャレンジ応援事業補助金について、交付事業が決定したので報告するものです。

2 補助金の概要

(1) 目的

若者自らが「まちの魅力向上」や「地域の課題解決」に向けて挑戦する提案事業に対して、市が財政的な支援を行い若者の社会参画を促進するもの

(2) 内容

若者で組織する団体（※）が課題解決等に挑む事業に対し補助金を交付
（※）15歳以上35歳未満の若者が主体となる団体

(3) 補助金

補助率10分の10 上限10万円（今年度予算額500千円）

3 選定結果

(1) 交付数 8事業（別紙1のとおり）

(2) 申請数 11事業（別紙2のとおり）

(3) 交付額計 492千円

(4) 選定方法

6月29日開催の松本市地域づくり市民委員会にて審査を行い、市民委員の意見を参考に選定

4 今後の進め方

(1) 採択事業について、市ホームページで公開します。

(2) 各事業の実現性や活動の発展性の向上のために、各団体に対して判定にあたっての市民委員会の意見をフィードバックして地域づくり課による伴走支援を行います。

(3) 今後、交付団体の活動報告の場と若者同士や若者と地域住民が交流できる機会をつくり、若者が活躍できる環境づくりを進めます。

担 当 地域づくり課 課 長 廣田 圭男（内線 6110）

令和5年度若者チャレンジ応援事業補助金 交付事業

No	事業名	申請団体	事業概要	申請額 (千円)	交付額 (千円)
1	鉄道上高地線及び沿線の魅力発信事業	しましま本店実行委員会	上高地線や沿線地域の歴史と情報を掲載した散策マップの制作。上高地線下新駅舎及び電車車内での古本市の開催	25	25
2	若手移住者と地域住民のつながりを構築し、松本の新たな価値を創造する事業	ユウビレ	若手移住者の定住と地域とのつながり構築を目的に、松本の文化や名産などの魅力を体感するイベントの開催	88	54
3	上高地線謎解きイベント	上高地線活性化プロジェクト	上高地線や沿線地域の魅力発信及び利用促進を目的に、上高地線を活用した謎解きイベントの開催	100	68
4	3Aフェス～“きこえる人”と“きこえない人”がつながる社会へ	3Aフェス実行委員会	講演会及び交流イベントを通じて、共生社会を考えるきっかけとなる企画の実施と松本についてクラスで取組んできた活動の地域への発信	100	80
5	女鳥羽川くさかり10分間デザイン	女鳥羽川デザイン企画室	女鳥羽川を「地域が活用する場」へと整備し、交流イベントを実施することで、地域コミュニティの活性化を図る。	85	85
6	デザイン力を“アゲル”スキルアッププロジェクト	Design Lab WAKAMATSU	若者目線でのまちの魅力向上を目的に、デザイン講座を実施し、地域のデザインを担う人材の育成を行う。	100	52
7	ワンダリングチャレンジin松本	一般社団法人 KOKO	松本の魅力や社会課題について体験することで、高校生・大学生が地域に参加するきっかけとなるイベントを開催	100	100
8	白樺新聞	白樺新聞社	地域の情報を集めた「白樺新聞」を発行し、地域内での情報共有をし、乗鞍高原周辺エリアでの取組みの促進を図る。	28	28
合計	採択事業数：8件			626	492

若者チャレンジ応援事業補助金



松本市第1次基本計画

基本施策1-6 若者が活躍できる環境づくり

未来を担う若者が多様な主体と関わる機会を創出し、若者を社会全体で育み、若者が活躍できるまちづくりを目指します。

基本施策3-1 住民自治支援の強化

住民自治力を高めながら、市民・行政など多様な主体が協働で課題を解決していく地域社会を目指します。

補助金の目的

- これまで地域との関わりが希薄とされてきた若者層への働きかけを強化
- 財政的支援・伴走支援により若者のチャレンジを応援
- 若者の主体的な社会参画を促進
- 若者ならではの独創性を活かした、協働のまちづくりへ

補助金概要

1
対象事業

- 松本市の地域課題の解決や魅力向上に取り組む事業
- 公益的、社会貢献的な事業
- 新たな成果を生む事業

2
対象者

- 3名以上の若者（15歳～34歳）による団体
- 市内に活動拠点がある or 市内で活動をしている
- 若者が主体で事業を実施

3
補助金額

- 補助金上限額 10万円
- 補助率 10分の10以内

審査基準 各項目について、「S・A・B・C・D」の5段階で評価

公益性	多くの市民の共感や事業効果が期待できるもの
主体性	若者自らが課題意識を持ち、主体的に行動する姿勢を感じるもの
創造性	若者ならではの視点、アイデアを生かした独創性があるもの
協働性	他団体、行政、企業等の多様な主体との連携を具体的に感じるもの
実現性	日程、場所、予算等の計画が妥当かつ現実的で、実現可能なもの
発展性	持続的かつ今後の展開が期待でき、他に波及効果が期待できる先進的なもの

① 鉄道上高地線及び沿線の魅力発信事業

申請団体：しましま本店実行委員会

趣旨・目的

上高地線やその沿線地域の魅力を発信し、鉄道や沿線を目的とした訪問者の増加、交流人口の拡大を目的とし、歴史や沿線地域の情報を掲載した散策マップの制作、上高地線下新駅舎及び電車車内での古本市を開催する。

事業内容

- 1 『旅のしおり』制作・配布
上高地線、沿線地域をより深く知り、同線の利用、沿線地域への訪問につなげる
昨年度までに4地域のしおりを制作（5900部を配布）
R5年度は、下新編を新たに制作
- 2 『本の駅・下新文庫』実施
下新駅舎を使った古本市の実施（毎月）
- 3 ブックイベント開催
2016年～開催（2020、2021はコロナで中止）
電車車内で開催する古本市（年一回）
約10組の本屋が出店する。

構成員

- 3人
・大学院生 × 1
・一般 × 2
（内対象者2人）

補助金額

- 事業費 25,100円
申請額 25,100円
・印刷費 25,100円

事業効果

- ・沿線地域の魅力発掘・魅力発信による上高地線利用の促進
- ・上高地線、沿線地域を目的とした訪問者及び交流人口の増加
- ・イベントの定期開催による、沿線住民、訪問者との交流基盤が形成される。

②中央地区縁日だよ！全員集合

申請団体：中央地区夏祭り実行委員会

趣旨・目的

少子化や親の負担増加、新型コロナウイルス等の影響で地域での伝統文化の継承が課題となっている。子どもから大人まで楽しむことができる夏祭りという形式で、地区や親の負担を軽減を図った新しい伝統文化継承の在り方を実践する。

事業内容

中央地区縁日だよ！全員集合

1 事業概要

- (1)日時：令和5年8月8日（火）15：00～20：00
- (2)主催：夏祭り実行委員会、中央地区町会連合会
- (3)共催：中央地区地域づくりセンター、大手公民館、中央地区福祉ひろば、中央地区子ども会育成会

2 企画概要

- (1)縁日
住民による屋台（中学生による屋台も予定）
特技発表会（会場：大手公民館）
- (2)ぼんぼん、青山様
小学生によるぼんぼん、青山様の実施
（参加した小学生に縁日で使える金券を配布）
四柱神社を起点に地区内を巡り歩く

※雨天時は、公民館内で実施

構成員

- 11人
・大学生 ×2
・一般 ×9
（内対象者は1人）

補助金額

- 事業費 300,000円
申請額 100,000円
・販売関係 100,000円

事業効果

- ・中央地区では、夏祭りの実施が初めてであり、地区内の住民同士の交流の促進につながる
- ・子どもたちと地域との接点
- ・従来の育成会が企画する方法から、外部の人も巻き込んだ実行委員会形式で企画することで地区の負担を軽減できる。
- ・他地区の伝統文化の継承のモデルとなる

③若手移住者と地域住民のつながりを構築し、新たな価値を創造する事業

申請団体：ユウビレ

趣旨・目的

定期的な情報発信や交流のできる若者コミュニティを作ることを目指し、若い移住者が交流し、地域とのつながりをつくることを目的としたイベントを実施し、その交流から新たな価値が生まれることを目指す。

補助金額

事業費 88,682円
申請額 88,682円

事業内容

1 交流イベント

- (1)松本市街の湧水めぐりと地場産無農薬野菜を湧水で冷やして食べる会 (7月)
- (2)松本の湧水で作ったコーヒーで焚き火を囲む会 (9月)
- (3)おやき作り体験 (11月)
講師：地元のおやき屋
- (4)松本市の感性マップづくり (2月)
講師：佐竹宏範さん (WSファシリテーター)
- (5)松本城ツアー (3月)
講師：市役所警備員の方

※参加者：各回10人

2 サイト作成

対面だけでなく、オンラインでも人が集まれるコミュニティへ
内容：松本のイベント情報、記事の投稿など

構成員

4人
・一般 × 4
(内対象者は4人)

- ・講師料：18,000円
- ・会場費：7,840円
- ・サイト制作費：33,966円
- ・サーバー費：25,536円
- ・広告費：3,340円

事業効果

- ・若手移住者同士の交流促進
- ・移住者と地元住民との交流のきっかけづくり
- ・行政の支援が届きにくい移住者層への働きかけ
- ・地域の情報が若者へ届くネットワークの構築

④Machinaka hutte

申請団体：Machinaka hutte

趣旨・目的

コンセプト「まちなかの山小屋」

山の魅力を多くの人に伝えることを目的に、参加者同士が交流し、つながりを作れるような登山、アウトドア関係のイベントを実施する。

事業内容

- 1 皆で作る焚火会
交流を促す仕掛けとして焚火を囲み、登山を趣味としない一般の参加者も含めたつながりづくりの企画
(1) 日時：①2023年6月24日（土）17：00～
②2023年10月末
(2) 場所：芥子坊主農村公園
- 2 山の1日ブックカフェと素人写真展
本や写真を通じて、街中で山の魅力を感じられる企画
(1) 日時：2023年11月
(2) 場所：イベントスペース
- 3 山道具相談会
登山道具について企画し、登山者の支援及び登山をやりたい人と経験者との交流を生み出す。
山道具フリーマーケットも実施
(1) 日時：①2023年7月 ②2024年3月
(2) 場所：イベントスペース
- 4 メディア運営
Webサイトの立ち上げ（登山、アウトドア関連のイベントやアウトドア用品などの情報など）

補助金額

事業費 99,500円
申請額 99,500円

- ・焚火会 24,500円
焚火台、炭、薪、椅子レンタル、消耗品
- ・ブックカフェ 30,000円
会場費、飲食謝礼、写真印刷代、消耗品
- ・山道具相談会 25,000円
会場費、プロジェクター購入費、印刷代
- ・Webサイト制作 20,000円

構成員

4人
・一般 ×4
(内対象者は4人)

事業効果

- ・登山者同士の横のつながりを構築
- ・交流の場、市街地で山の魅力を発信する場の創出
- ・仲間づくりや情報交換により、登山への不安を解消し新規参入を促すことで、松本の魅力を知る人が増える

⑤ 上高地線謎解きイベント

申請団体：上高地線活性化プロジェクト

趣旨・目的

上高地線や沿線地域の魅力発信および利用促進を目的に、上高地線を活用した謎解きイベントを実施する。

事業内容

上高地線謎解きイベント

- (1)日時：2023年9月～10月頃
- (2)場所：上高地線沿線
- (3)参加人数：150人
- (4)企画概要

- ・松本駅で上高地線わくわく一日フリー乗車券を購入
＝イベント参加費

(大人500円、子ども250円)

- ・松本駅→新島々駅間の沿線施設の謎を解く
(名所や飲食店など)
- ・公式LINEを使い、謎を解くと次の新しい謎が配信されるように設定(問題設置施設：3～5か所程度)
- ・謎解きをクリアした参加者に景品
(景品は、アルピコホールディングス株式会社から提供)
- ・協力：アルピコ交通、信大回廊、松本青年会議所、古い電車で新しい語らいの会、しましま本店実行委員会
- ・協賛：地元企業

構成員

- 6人
- ・高校生 × 5
- ・一般 × 1

補助金額

- 事業費 183,000円
- 申請額 100,000円
- ・切符代 100,000円
(参加費補助)

事業効果

- ・上高地線沿線地域の魅力発信
- ・沿線施設を目的とした新規上高地線利用者の増加
- ・ほかの上高地線関係団体との協働による活性化を促進

⑥ 3Aフェス～“きこえる人”と“きこえない人”がつながる社会へ

申請団体：3Aフェス実行委員会

趣旨・目的

講演会をとおして聴覚障がいについて知ってもらい“きこえる人”と“きこえない人”の双方の立場から共生社会を考えるきっかけづくりとする。また、総合的な学習での活動や学びを地域に共有し、地域の人とのつながりを体感するイベントを実施する。

事業内容

1 講演会

一般社団法人手話エンターテインメント発信団oioiさん（大阪）を招き講演会を開催

2 総合的学習の地域発信

これまで生徒が行ってきた「松本のため地域のため」の活動を市民に体験してもらう

- ・松本周辺、松本城の見学（手話観光ガイド）
- ・ものづくりの体験（お菓子づくりのワークショップ、そばチュロス）
- ・環境にやさしい素材を使ったものづくり（ペーパークラフト、木箱）

- (1)日 時 9月18日（月・祝）
(2)場 所 信州大学教育学部附属松本中学校体育館等
(3)参加者 100～150名（付属3校園、近隣小中学校、地域の方々）
(4)広 報 ポスターを地域の店舗、事業所に掲示依頼

構成員

39人
・3年A組
（内対象者は6人）

補助金額

事業費 100,000円
申請額 100,000円

※不足分は学級総合費で賄う

事業効果

- ・地域の方々に聴覚障がいについての理解が深まる
- ・“きこえる人”と“きこえない人”の双方の立場から共生社会を考えるきっかけとなる
- ・松本の魅力の再認識
- ・学校での学びを校外で共有、実践することにより、地域の中で多様な教育ができる環境づくりにつながる。

⑦女鳥羽川くさかり10分間デザイン

申請団体：女鳥羽川デザイン企画室

趣旨・目的

女鳥羽川を地域にとってより身近で「地域が活用する場」になるように整備し、地域住民の交流イベントを実施することで、地域のコミュニティの活性化を図る。

事業内容

1 草刈り活動

(1)各町会の河川清掃への参加

活動の対象地区である、城東地区と東部地区との連携、町会との関係性の構築を行う。下記の日程で実施済。

5月12日（金）桜町町会

6月18日（日）桜町町会、元町上町会

(2)学生による草刈り活動

町会の了承が得られたエリアで、学生独自の草刈り活動を実施する。

2 10分間デザイン

草刈り活動後に、地域住民が楽しめる企画やくつろぐことのできる企画、地域のことを話し合う企画を実施する
対象は企画内容により多様な世代を想定

例：コーヒー提供、ラジオ体操、ヨガ、動物とのふれあいなど

補助金額

事業費 85,776円

申請額 85,776円

構成員

5人

・大学生 × 5

- ・胴長靴 8,560円
- ・草刈り機 64,000円
(2台分)
- ・ガソリンタンク 4,000円
- ・ビニールシート 2,946円

事業効果

- ・女鳥羽川の景観保全
- ・地域活動の担い手
- ・地域コミュニティ内の交流の機会
- ・地域（町会、地域づくりセンターなど）、市民活動団体と学生のつながり作り
- ・公共的空間の新しい利用方法の提案

⑧デザイン力を“アゲル” スキルアッププロジェクト

申請団体：Design Lab WAKAMATSU

趣旨・目的

若者目線でまちの情報や魅力の発信をデザインできる人材を育成するためのデザイン講座を実施する。

事業内容

1 デザイン講座

- (1)Canva講座〈基礎〉(7月)
- (2)Canva講座〈応用〉(9月)
- (3)Illustrator講座〈初歩〉(10月)
- (4)Illustrator講座〈基礎〉(11月)
- (5)Illustrator講座〈応用〉(12月)

- ・場 所：信州大学
- ・講 師：PURUGURA Design/Rim DESIGN WORKS (予定)
- ・参加者：各回10人
- ・対象者：デザイン力を向上させたい市内大学生、社会人

2 デザイン力のアウトプット

講座の成果として、講座参加者が地元企業や自治体と連携し、デザインを実際にできる機会をつくる
例：HPバナー制作や地域団体のPRポスターなど

補助金額

事業費 99,520円
申請額 99,520円

構成員

5人
・大学生 × 5

- ・講師謝礼 50,000円
- ・Adobeライセンス料 47,520円
- ・印刷費 2,000円

事業効果

- ・継続的なデザイン人材の創出
- ・若者目線でのデザインにより、若者が楽しみたくなるまちづくりにつながる
- ・デザインを介して、若者と市民活動団体や地域企業などとの協働が生まれる

⑨ワンダリングチャレンジ in MATSUMOTO

申請団体：一般社団法人KOKO

趣旨・目的

松本の魅力や地域課題などについてのミッションにチャレンジし、高大専生が松本のまちに出るきっかけを作り、地域社会に参加するきっかけとなるイベントを実施する。

事業内容

ワンダリングチャレンジ in MATSUMOTO

- (1)日時：2023年7月17日（月）～8月4日（金）
- (2)場所：信毎メディアガーデン（オープニング、クロージング）
- (3)参加費：無料
- (4)企画概要：
 - ・3人1組で応募
 - ・7月17日から7月末までの約2週間の間、チームで活動
 - ・特設サイトでミッションの確認や回答の提出を行う
 - ・ミッションは地域の魅力や課題に関するもののほか、協賛企業によるオリジナルミッションを設定する（15個程度）
 - ・ミッション例：「残したいまちの景色」
松本城を100年後まで残すにはどうしたらいいのか？
 - ・8月4日（金）のクロージングにて表彰
（受賞チームには賞金3万円）

その他

- ・県内では昨年、茅野市で実施

構成員

4人
・一般 × 4
（内対象者は3人）

補助金額

事業費	460,100円
申請額	100,000円
・会場費	100,000円

事業効果

- ・学生の主体的な地域・社会への参加を促す
- ・高校生の探究学習、大学生の地域活動のきっかけとなる
- ・学生の視点での松本の魅力や課題の発見につながる

⑩キミも今日から松本マスター！

申請団体：KIYORA

趣旨・目的

観光客と市民向けに「美味しく学ぶ松本の特産品」をテーマに体験イベント及び市街地でのスタンプラリーを実施し、松本の特産品のアピールや新しい魅力を再発見してもらう。

事業内容

- 1 「見極めよう！最高に美味しい焦がし味噌」
(食×体験ブース)
 - ・体験型イベントを開催し松本の特産品のアピールを行う。
 - ・五平餅を無償で受け取り、その場で炙り試食してもらう
 - ・参加予定者 200人
- 2 「歩こう！松本スタンプラリークイズ」
 - ・観光地にスタンプを設置しクイズ形式で市街地を巡る
 - ・市民や観光客に松本の新しい魅力を再発見してもらう
 - ・参加者に地元飲料水を配布200本、オリジナルステッカー100枚

※KIYORA：清いと宇宙の文字から引用した「清宙」という語源。若者から未来を創造していく、お世話になった松本を盛り上げたい。日本に貢献したいという気持ちから名前がつけられました。

構成員

5人
・短大生 ×1
・大学院生×1
・一般 ×3
(内対象者は5人)

対象経費

事業費 100,000円
申請額 100,000円

事業効果

- ・松本市や市の特産品について理解を深め、観光客の増加につなげる
- ・観光客と市民に「食×体験」イベントをとおして、松本市の魅力を伝える

⑪ 白樺新聞

申請団体：白樺新聞社

趣旨・目的

乗鞍高原ではゼロ・カーボンなどの取組みなどが進む一方、特定の団体に属していない高齢者や移住者などには地域で起きている新しい情報が届いていないことも多く情報格差が生じている。地域の情報を集めた「白樺新聞」を発行し、地区内での情報共有を図り、新たな構想や取組みを加速化させコミュニティの活性化につなげる。

事業内容

- ① 地域内の情報を集め楽しく読める紙新聞を作成
 - ・年4回
 - ・レトコ印刷を使用
- ② 若者と地域との交流促進
 - ・若者が取材をとおして地域の先輩の話を聞く
- ③ 移住促進の一助となる情報発信
 - ・地区課題である人口減少の進展に伴い、学校統廃合やデュアルスクール構想なども始まったところで、移住を考えている層へのリアルな乗鞍高原での生活を伝える

構成員

10人(20代~40代)
・一般 ×10
(内対象者は3人)

申請金額

申請額 28,000円
(総事業費49,161円)

事業効果

- ・地域のための新しい取組みの加速化につながる
- ・白樺新聞を媒体に若者と住民をつなぎコミュニティの活性化
- ・移住希望者に対してリアルな乗鞍高原の暮らしを伝える効果